

LOCTITE®

PC 9410 (FGM)床補修剤 コンクリート面補修 施工手順



A. 施工前準備品 ①

ヘンケル製品

● 床補修剤 硬化速度調整剤

- LOCTITE PC 9410 (FGM) : 2液混合無機系補修剤 (IDH:428557)
(床補修剤)
- LOCTITE PC 7257 Winter : 冬用 7°C以下のPC 9410 (FGM) の本剤、
霧困気の場合使用 (IDH: 708253)
- LOCTITE PC 7257Summer : 夏用 29°C以上のPC 9410 (FGM) の本剤、
霧困気の場合使用 (IDH: 708252)

A. 施工前準備品 ②

市販品-1

- 電動グラインダー
- コンクリートサンダー
- タガネ
- ハンマー
- 清掃用ブラシ又は掃除機ウエス、又はペーパーウエス
- 塗布成形用コテ

A. 施工前準備品 ③

市販品-2

- 混合攪拌用容器
- 計量ばかり
- マスク
- ゴム手袋
- 保護メガネ
- 洗淨用溶剤（アセトン、シンナー等）

| B. 安全対策

- 作業時は必ずゴム手袋、軍手、保護メガネ、マスク等の安全保護具を着用して下さい。
詳細については各製品の製品安全性データシート（SDS）を参照して下さい。
- 屋内での作業では、常に換気を行ってください。
- グラインダーの取扱い、安全対策はグラインダーの取扱説明書を参照して下さい。

| C. 施工手順

1. 下地処理

コンクリート補修面浮部、窪み部 及びクラック部の補修

1) コンクリート浮部、窪み部補修 - 1

- コンクリート浮部は、タガネを用いてハツリ



| C. 施工手順

1. 下地処理

コンクリート補修面浮部、窪み部 及びクラック部の補修

1) コンクリート浮部、窪み部補修 - 2

- 窪み部は表面をグラインダー(コンクリートサンダー) 等により研磨して



| C. 施工手順

1. 下地処理

コンクリート補修面浮部、窪み部 及びクラック部の補修

1) コンクリート浮部、窪み部補修 - 3

- 劣化したコンクリート表面を除去して下さい。



| C. 施工手順

1. 下地処理

コンクリート補修面浮部、窪み部 及びクラック部の補修

2) コンクリートクラック部の補修

タガネ、グラインダー等を用いて、コンクリートクラック部の周囲を幅約10mm、深さ約5mm程度でV溝形状に加工して下さい。



| C. 施工手順

2. 補修部清掃

補修部表面を最良の状態にするために研磨後の削り粉はブラシ等で除去し、油分や汚れ等を溶剤等で洗浄し十分乾燥して下さい。



| C. 施工手順

3. 補修剤混合 塗布方法 ①

- 砂礫（されき）にアクチベーターを
混合比5：1（重量比）で添加し混合して下さい。



アクチベーター添加

| C. 施工手順

3. 補修剤混合 塗布方法 ②

- 混合は塗布作業直前に行い、



| C. 施工手順

3. 補修剤混合 塗布方法 ③

- 下地処理後の補修部に塗布し、



| C. 施工手順

3. 補修剤混合 塗布方法 ④

- コテ等で延ばし 平滑な面を成形して下さい。



| C. 施工手順

3. 補修剤混合 塗布方法 ⑤

- 塗布作業は短時間で完了させて下さい。
- 本液に水を混合して液の希釈は行なわないで下さい。
- 各種施工の詳細は、4. 箇所別補修剤調整方法及び施工方法を参照下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ①

1) 深さのある箇所への流し込み施工

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ①

1) 深さのある箇所への流し込み施工

- 深さ2.5cm以上の補修に於いては、PC 9410 (FGM)本剤 5.5kgに対して、1.2kgまでの乾燥した小粒の砂利を フィラーとして加えることができます。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ①

1) 深さのある箇所への流し込み施工

- 深さ2.5cm以上の補修に於いては、PC 9410 (FGM)本剤 5.5kgに対して、1.2kgまでの乾燥した小粒の砂利を フィラーとして加えることができます。
- 乾燥した小粒の砂利を、PC 9410 (FGM)の砂礫 (されき) に混合後、アクチベーターを添加して下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ①

1) 深さのある箇所への流し込み施工

- 深さ2.5cm以上の補修に於いては、PC 9410 (FGM)本剤 5.5kgに対して、1.2kgまでの乾燥した小粒の砂利を フィラーとして加えることができます。
- 乾燥した小粒の砂利を、PC 9410 (FGM)の砂礫 (されき) に混合後、アクチベーターを添加して下さい。
- アクチベーターは、砂礫 (されき) 5に対し1の割合 (重量比) で混合して下さい。

※小粒の砂利を添加することで、圧縮強度の低下を生じる場合があります。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ②

2) 水が付着した補修面への施工

作業箇所が湿潤でも可能ですが、たまり水は除去して下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ②

2) 水が付着した補修面への施工

作業箇所が湿潤でも可能ですが、たまり水は除去して下さい。

3) トップコートの施工

PC 9410 (FGM)が施工後30日未満の硬化の場合は、PC 9410 (FGM)へのトップコートの塗布は推奨致しません。

もしトップコートを行なう場合には、エポキシベースのコンクリート補修剤 PC9416 (旧製品名Floor Fill) を推奨いたします。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ③

4) 広範囲の施工

広いエリアの施工時に固着時間を延長させたい場合は、PC 7257Summer(硬化抑制剤) を使用して硬化を遅延させて下さい。

5) 低温霧囲気下での施工－1

- 本補修剤は低温になるほど固着時間は長くなります。
霧囲気温度及びPC 9410 (FGM)の本剤の温度が7℃以下の場合、PC 7257Winterを使用することにより、固着時間を促進させることができます。
PC 7257Winterを使用した混合作業は、7℃以下の霧囲気で行って下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ④

5) 低温雰囲気下での施工-2

- 砂礫（されき）とアクチベーターを5：1の混合比（重量比）で混合したPC 9410（FGM）に対して、PC 7257Winter（硬化促進剤）を2.2%（重量比）加えることで硬化速度を促進させることができます。
- PC 7257Winte（硬化促進剤）を使用する場合、PC 9410（FGM）本剤の1回の混合量は500g以下にしてください。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ⑤

5) 低温雰囲気下での施工－2

PC 7257Winter（硬化促進剤）は、PC 9410（FGM）を塗布する直前に加え混合し、素早く補修部に塗布・成形を行なって下さい。



砂礫（されき）とアクチベーター混合後のPC 9410（FGM）にPC 7257Winter（硬化促進剤）を添加混合

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ⑥

5) 低温雰囲気下での施工-3

- 低温時の床面補修の場合、補修面と雰囲気温度が同一温度になっていることを確認し、又結露等により補修面に霜や氷が付着していないことを確認後、塗布・成形作業を行なって下さい。
- 補修面に霜や氷が付着している場合は、補修面を再度サンドペーパー等で霜や氷を削り除去し、ウエス等で清浄後塗布して下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ⑦

6) 高温雰囲気下での施工－1

- 雰囲気温度及びPC 9410 (FGM)本剤の温度が29℃以上の作業の場合、PC 7257Summer(硬化抑制剤)を使用することにより、硬化反応を抑制し、固着時間、作業時間、発熱をコントロールすることができます。
- PC 7257Summer(硬化抑制剤)を使用する場合、PC 9410 (FGM)本剤の1回の混合量は、500g以下にして下さい。

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ⑧

6) 高温雰囲気下での施工－2

砂礫（されき）とアクチベーターを5：1の混合比（重量比）で計量後、PC 9410（FGM）の総重量に対して、PC 7257Summer(硬化抑制剤)を2.2%（重量比）添加することで硬化速度を遅延することができます。



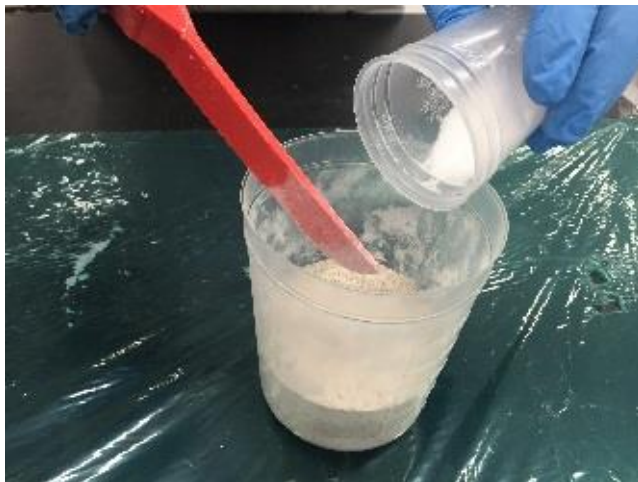
PC 9410（FGM）の砂礫（されき）に
PC 7257Summer(硬化抑制剤)を添加混合後、
アクチベーター混合

| C. 施工手順

4. 施工箇所別補修剤調整方法及び施工方法 ⑨

6) 高温雰囲気下での施工-3

PC 7257Summer(硬化抑制剤) を、上記混合比で計量されたPC 9410 (FGM)の砂礫(されき)に添加し混合後、アクチベーターを加え更に混合して下さい。
混合後は素早く補修部に塗布・成形を行なって下さい。



PC 9410 (FGM)の砂礫 (されき) に
PC 7257Summer(硬化抑制剤) を添加混合後、
アクチベーター混合

| D. 道具洗淨

- 使用後のコテや攪拌棒は、速やかに溶剤等で洗淨して下さい。

| E. 施工上の注意 ①

- 各補修剤の特性 保管等に関しては、技術資料を参照または弊社までお問い合わせ下さい。
- 素材等への影響 作業性等は事前に確認して下さい。
- 固着時間、硬化速度は雰囲気温度に左右されます。
低温では硬化は遅くなり、高温では硬化は速くなります。
- 固着時間、硬化速度は混合量に左右されます。
混合量が多い場合は硬化が速くなります。

| E. 施工上の注意 ②

- 低温補修時には、補修面が同一温度になっていることを確認し、補修面に霜や氷が付着していないことを確認後、液塗布作業を行なって下さい。
補修面に霜や氷が付着している場合は、補修面を再度サンドペーパー等で削り、ウエス等で清浄後塗布して下さい。

| E. 施工上の注意 ③

- PC 9410 (FGM)が施工後30日未満の硬化の場合は、
PC 9410 (FGM)へのトップコートの塗布は推奨致しません。
トップコートを行なう場合には、
エポキシベースのコンクリート補修剤 PC9416 (旧製品名Floor Fill)
を推奨いたします。

| F. 備考

- ここに記載された施工手順書が使用される方の目的に適合するか否かの判断や、取扱時並びに使用時に起因する危険から人や物を保護する為に有効と思われる予防対策の採否の決定は、使用される方の責任に於いて行なって下さい。
- 記載の内容は記載の適用例全てに対応出来るとは限りません。
又、本施工手順書を採用し補修された製品や設備に対して保証するものではありません。
- 又、本施工手順書を採用し補修された製品の破損、信頼性、利益の損失等についての責任は負いかねます。